



稲作農家 各位

# 山武稲作情報 第6報

## (2020年7月29日発行)

山武農業事務所 改良普及課  
 電話 0475-54-0226  
 FAX 0475-52-7914

### 山武地域の生育状況

各品種ともに平年より3日程度早く出穂期になりました(表1)。その後、低温・日照不足の傾向が続いたため登熟の進みが遅れており、登熟日数は品種ごとの標準的な日数より長くなり、成熟期は平年並みとなる見込みです(表2)。

また、5月中・下旬に移植した各品種が現在、出穂期です。斑点米カメムシの発生を確認し、防除を行いましょう(裏面参照)。

表1 調査ほ場の出穂期、成熟期(見込み)

品種	場所	年	移植日	出穂期 (見込み)	出穂期の葉色 (SPAD値)	成熟期 (見込み)	
ふさおとめ	山武市 (成東 育成地)	2020	4/24	7/7	36	(8/11)	
		2019	4/25	7/16	41	8/18	
		平年値	4/26	7/12	37	8/14	
	山武市 (白幡)	2020	4/29	7/11	44	(8/15)	
		2019	4/26	7/18	45	8/20	
		平年値	4/27	7/13	37	8/16	
ふさこがね	山武市 (成東 育成地)	2020	4/24	7/10	40	(8/18)	
		2019	4/25	7/18	44	8/22	
		平年値	4/26	7/13	39	8/18	
	山武市 (井ノ内)	2020	5/2	7/19	41	(8/27)	
		2020年から新設のため平年値、前年値無し					
コシヒカリ	山武市 (成東 育成地)	2020	4/24	7/18	35	(8/26)	
		2019	4/25	7/25	39	8/26	
		平年値	4/26	7/21	35	8/28	
	東金市 (幸田)	2020	5/2	7/27	40	(9/4)	
		2019	5/4	7/26	42	9/2	
		平年値	4/26	7/21	37	8/28	
粒すけ	山武市 (成東育成地)	2020	4/24	7/17	37	(8/25)	
		2019	4/25	7/21	36	8/29	
【飼料用米】							
アキヒカリ	山武市	2020	4/26	7/11	41	(8/20)	
夢あおば	山武市	2020	5/15	(8/1)	-	(9/15)	

作柄調査ほ等、平年値は過去10年(成東育成地は7年)間の平均

表2 山武地域における移植日ごとの成熟期の予測

品種	ふさおとめ		ふさこがね			コシヒカリ			粒すけ		
	4/20	5/1	4/20	5/1	5/15	4/20	5/1	5/15	4/20	5/1	5/15
成熟期	8/14 頃	8/17 頃	8/20 頃	8/23 頃	9/4 頃	8/27 頃	9/1 頃	9/10 頃	8/26 頃	8/31 頃	9/12 頃

予測値は令和元年度試験研究成果普及情報の推定式により気温(アメダス横芝光)から計算して推定(「粒すけ」は調査ほ等の生育から推定)。移植時の苗の葉令、活着状況、ほ場ごとの気象条件、予測日以降の気象条件等による誤差あり。

## これからの管理のポイント

### ○出穂の遅い水田でのカメムシ防除

斑点米カメムシ類の発生が多くなっています。今後、気温の上昇に伴って、カメムシ類の増殖や水田侵入後の加害活動が活発化するので注意が必要です。基本的な防除適期や薬剤は、「水稻の生育状況と当面の対策（第5報）」及び「病害虫発生予察注意報（第1号）」を御確認ください。

これからの時期は、出穂が遅い水田にカスミカメ類が集まったり、孵化した大型カメムシ類の幼虫が乳熟期の粃を吸汁したりします。稲の生育状況やカメムシの種類をよく観察し、適切に防除しましょう。

#### 【これからの防除のポイント】

- 大型カメムシ類の多発生地では穂揃期と乳熟期（出穂 15 日後頃）の2回防除を行う。  
また、粒剤ではなく液剤または粉剤を散布する。
- 共同防除を実施時に出穂期前だったほ場では、追加防除を行う。
- 地域全体の発生密度を下げるため、飼料用米でも適切に防除を行う。

#### 【草刈りと除草剤（抑草剤）を組み合わせた畦畔管理方法】

これから稲刈りが始まり、遅植えのほ場の畦畔管理まで手がまわらなくなりがちです。畦畔のイネ科雑草の穂が出るとカメムシが集まりやすくなります。

そこで、草刈り後、雑草の草丈が10cm程度まで再生した頃に抑草剤（グラスショット液剤）を散布すると、再生した雑草の草丈の伸長や出穂を抑えることができます。

雑草の根が枯れないことから、畦畔や法面の崩壊を防ぐことができます。



畦畔のイネ科雑草の穂に飛来した斑点米カメムシ（農林総研病害虫防除課提供）

## コラム⑥ 千葉県における水稻の品種育成と「粒すけ」の誕生

県独自の水稻の品種育成は平成3年に始まり、それまで頻発していた早場米産地特有の梅雨寒による冷害への耐性や耐病性の強化を図る育種が行われるようになりました。

また、出穂期以降は一転して高温になります。この条件では玄米がどうしても小さくなりやすいのですが、玄米の大粒化も当初から重要な改良目標とされ、収量の増加とともに、精米歩留りや炊飯米の外観・食感の向上等、品質面でも改良されました。

こうして育成された品種が早生品種の「ふさおとめ」、中生品種の「ふさこがね」で、今では県オリジナル品種として定着しています。

そして、「粒すけ」もこの一貫した方針により育成された晩生品種です。その名のとおり玄米の粒の大きさが特徴であるとともに、「コシヒカリ」の流れをくむ良食味で、しかも栽培しやすい品種です。



「粒すけ」の  
育成系統図

